



STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信第7号 2023. 11. 13 発行

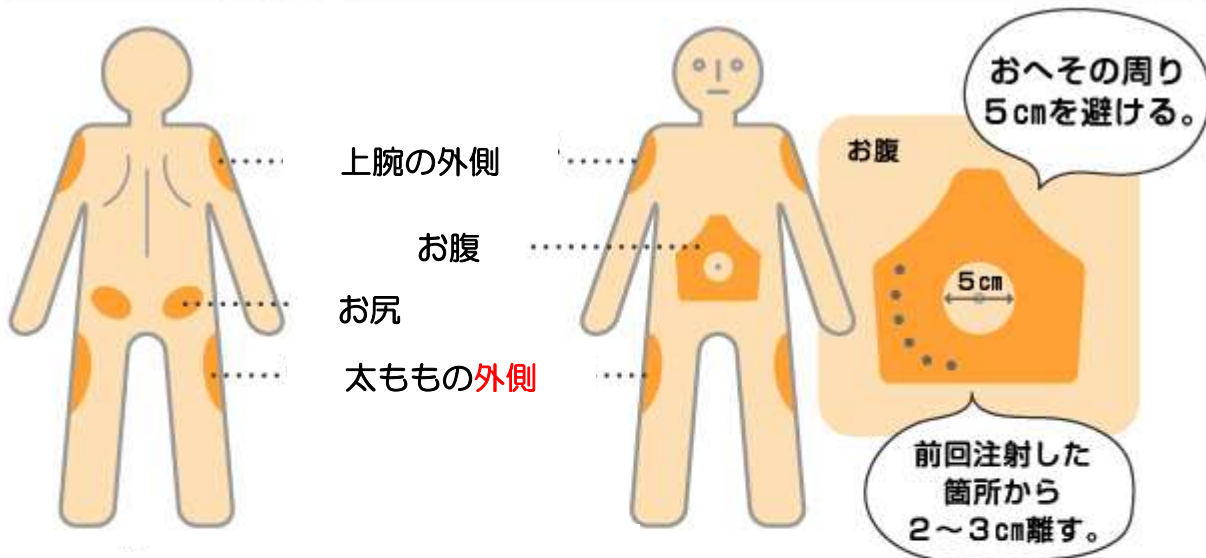
インスリン製剤・インクレチン製剤などの注射の打ち方は正しいですか？

自己注射歴が長くなると手技が自己流になる患者も少なくありません。また、私達医療者も、自己注射についてきちんと把握している必要があるため、今回はインスリン自己注射について紹介します。

【注射準備時のポイント】

- ・インスリン製剤は種類により打つタイミングが異なり、またインクレチン製剤（トルリシティ等）のように週1回投与製剤もあるため、打ち忘れを予防するための工夫を**患者の生活時間に合わせ考えましょう。**
- ・注射実施部位を確認し、ローテーションすることを伝えましょう。場所を変えて打っていると患者が話していても2か所を交互に打っている場合もあります。また、正しい場所に打っていないこともあるため、**自己注射部位の確認が必要**です。

インスリン注射部位



【注射実施時のポイント】

- ・インスリン、インクレチン製剤の注射は皮膚をつまみ上げる必要はありません。
理由：インスリン、インクレチン製剤の自己注射は皮下注射です。最近のペン型注入器の注射針は多くが**32~34G**で、**針の長さが4mm**で、これを使用していれば皮膚をつまみあげなくても筋肉に到達することがないように設計されているためです。つまみあげると、皮下組織と共に筋肉を持ち上げてしまうリスクがあります。**当院も4mmの針を使用しています。**
- ・インスリン注射は**注入ボタンを押したまま針を抜きます。**
理由：ペン型インスリンに血液が逆流するのを防ぐためです。

文責：成田

